母子相互作用の臨床応用に関する研究

原　ひろ子（お茶の水女子大学家政学部）

子供の成長をめぐり，親および保育者の関わり方にも社会文化の変化に即した対応が迫られている。そこで，当研究班では以下の二研究を同時進行させている。

A）狩猟採集民社会における育児法の比較研究

狩猟採集民社会の育児法について分析中である。人口密度の低い地域で非定住的小集団をなし，自然の動植物の補獲・採取を生業とする点で共通しているものの，育児法には多様性が見られる。たとえば，アフリカのピグミー（以下Pとする）とブッシュマン（以下Bとする）を比べてみると，離乳前の乳児はP，Bともに母子関係は緊密だが，閉鎖的母子密着状態にあるのではなく，小集団の中で開かれた母子関係であり，いわば複数の「父」と「母」から愛情と監視の目を注がれて育つ，という点で共通性が見られるが，次のような差異があげられる。

1）Pにおいては非常に早期から生業活動に参加し始めるばかりでなく，“自分の事に責任を持て。それは集団に対する義務である”として，幼児の病気や怪我さえも当の幼児の責任とする。一方Bでは，生業活動への参加は遅く経済的自立年齢も高いばかりでなく，子供に対する禁止，叱責，制裁が全般に少なく，より早期の自立は奨励されていない。

2）Pにおいては，弟妹の誕生とともに母親からの分離，年齢集団への参加が強いられる。また次子出生前の乳児でも母親の労働時には集団保育の形をとられる。Bにおいては，弟妹の誕生までは母親の労働時も含めて母子密着で，次子誕生後も母親から強制的に分離させられることはなく，自然に分離して年齢集団に関心を向けていくのを待つ。

3）小集団の規模の違いから，幼児期以後，Pにおいては同年齢集団を，Bは多年齢集団を構成する。また，Pにおいてはゲームなど競争的遊びが主であるがBの遊びには全く競争的要素が見られないなど，遊びの内容や方法に違いがある。

4）攻撃性は，Bにおいては小集団の争いを避けるため，抑圧することが期待され，怒りや不満がうっ積した時には攻撃的になるよりもふさぎこむ行動がとられる。また，歌，踊り，おしゃべりによってもかなり解消されるが，集団の分裂に至る場合もある。個人猟ゆえ，小集団から離れても生存可能なのである。一方Pにおいては攻撃性は率直に表現されるが，集団猟ゆえ小集団の分裂は望ましいことではない。小集団内の緊張が高まるとmolimo(公認された暴力を伴う儀礼)を行い，その緊張・不満を爆発させて解消する。

PとBおのおのの養育法はおのおのの自然環境，生産方法，社会組織，価値体系などと密接な関連をもつものである。今後，極北圏，オーストラリア等における狩猟採集民の養育法に関しても，おのおのの自然・文化環境との関連を分析していく予定である。

B）幼児の生活行動とテレビ視聴行動

昭和58年11月以来，ほぼ6カ月おきに，1名の男児（当時2歳10カ月），3名の女児（当時，3歳0カ月，3歳4カ月，2歳9カ月），計4名の対象児の家庭を訪問し，参与観察を含む，母親に対するインタビュー調査を続けている。各期，一週間にわたる当該児の生活時間，生活行動を記録し，その中にテレビ視聴行動を位置づける作業を実施してきた。その結果，現在までに以下のような現象が観察されている。

1）子どもの年齢に応じてテレビへの反応も異なってくる。

2歳後半～3歳前半ごろは，メッセージ内容に対し，部分的に反応を示す。登場人物が静かにしていたり，おだやかに会話をしたりしているシーンを注視することは少なく，大きな音，勇ましい音，戦闘シーン，動きの激しいシーンなどは夢中になって見ていることが多い。さらに，怪獣などが登場すると，テレビ画面をぶち，身ぶり，手ぶりを加えて，画面に吸いつけられたようにして見る。大きくなるにつれ，メッセージ内

容に対しては，このように動作で反応することは少なくなり，全般に注視時間も長くなる。

2）知的発達の程度，関心領域に応じて，子ども自身が番組を選択している。

2歳後半～3歳前半ごろは，主人公の変身前のポーズ，戦闘シーンのポーズなど，象徴的な動作の模倣を喜ぶ傾向がみられる。文字や数に関心が生まれるようになると，そのような内容を提供する番組を好んで見，言葉の模倣をするようになる。動作の模倣から言葉の模倣への移行が見受けられる。

3）子どもが選択する番組内容は情緒的解放の程度に対応する。

外で友だちと遊ぶことが多く，直接的な経験が増えるに伴い，緊張感をおぼえることが多くなると，戦闘シーンの多い番組は避けるようになる。

4）親のテレビに対する態度，兄や姉のテレビに対する態度が子どもの視聴態度に反映する。

親があまりテレビを見ない家庭では，子どもは，それほどテレビを見ない。兄や姉のいる子どもは，兄や姉によって選択された番組を見る。一緒に視聴する場合には，テレビが提供するメッセージをそのまま受容するのではなく，兄や姉の解釈で部分的に強調されたメッセージを受容する。

5）子どもは新奇なもの，緊張感を好む。

友だちとの遊びに熱中している時，あるいは新しいおもちゃで遊んでいる時，子どもはテレビのことは忘れている。慣れたおもちゃや緊張感のない遊びをしている時はテレビの威力は大きい。

以上のような少数サンプルの観察を続けることにより，大量サンプルによる研究のための基礎的な仮説を設定できる方向へと研究を進めていく予定である。

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

子供の成長をめぐり,親および保育者の関わり方にも社会文化の変化に即した対応が迫られている。そこで,当研究班では以下の二研究を同時進行させている。